

凡例

・：意見等
⇒：回答等

第1回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会 議 事 概 要

事項	第1回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会	出席者	協議会委員：10名 (国県関係部局・事務局等除く)
日時	令和6年3月12日(火)14:00～16:00	場所	丹波県民局 柏原職員福利センター1階 会議室
内容	1 開会 2 委員及び出席者紹介 3 報告事項 兵庫県における総合治水の取組 国の流域治水の取組 4 議事 丹波東部地域における取組実績 丹波東部地域における計画改定の方針性とスケジュール(案) 5 その他 神戸地方気象台からの情報提供 6 閉会		
資料	【配付資料】 議事次第、出席者名簿、配席図 資料1 兵庫県における総合治水の取組 資料2 国の流域治水の取組 資料3 丹波東部(竹田川流域圏)地域における取組実績 資料4 丹波東部(竹田川流域圏)地域における計画改定の方針性とスケジュール(案) 資料5 防災気象情報の改善に係る取組について 参考資料1 地域総合治水推進協議会 設置要綱及び公開要領 参考資料2 地域総合治水推進計画 参考資料3 フォローアップシート(令和6年2月) 参考資料4 総合治水条例の概要(パンフレット) 参考資料5 みんなでとりくもう!「総合治水」(パンフレット)		

1 開会

丹波県民局長より開会のあいさつを行った。

2 委員及び出席者紹介

事務局より委員及び出席者の紹介を行った。

3 報告事項

1) 兵庫県における総合治水の取組

事務局より、兵庫県における総合治水の取組について説明を行った。

2) 国の流域治水の取組

事務局より、国の流域治水の取組について説明を行った。

4 議事

1) 丹波東部地域における取組実績

事務局より、丹波東部地域における取組実績について説明を行った。

2) 丹波東部地域における計画改定の方針とスケジュール(案)

事務局より、丹波東部地域における計画改定の方針とスケジュール(案)について説明を行った。

<意見交換>

主な意見等

3. 報告事項

1) 兵庫県における総合治水の取組

2) 国の流域治水の取組

※議事概要確定後、ホームページで公開する際には、以下の網かけ部分（発言者名前）は削除します。
--

・姫路競馬場の船場川調整池について、実際に貯留活用した実績はあるのか。(会長 藤田会長)
⇒整備後に大きな降雨がなく、貯留した実績はない。(県関係部局 総合治水課)

・兵庫県は総合治水の取組を実施しているが、国が実施している流域治水についてはどのような扱いになるか。(会長 藤田会長)
⇒国の方では、直轄管理する1級河川を含めてすべての流域について流域治水に取り組むということになっている。思想としては、基本的に総合治水と同じ考えなので、県管理の2級河川についても総合治水の推進計画を進めることが流域治水を進めていることになると考えている。1級河川については国が流域治水協議会を開催しているので、それに参加することで情報共有が図られると考えている。(県関係部局 総合治水課)

4. 議事

1) 丹波東部地域における取組実績

2) 丹波東部地域における計画改定の方針とスケジュール(案)

・次の第2回協議会までに、次期10年間の推進計画において、どこでどのように整備するかということを決めると思うが、優先順位を決めるための方針があれば教えてほしい。(会長 藤田会長)

⇒社会情勢の変化もあるが、従来どおりの河川下水道対策を着実に進めていきたい。また、気候変動の問題もあるので、これだけで十分対応できない部分は、流域対策、減災対策、いわゆる防災訓練等についてもそれぞれ並行して進めていきたいと考えている。(事務局)

・一気に対策を実施することはできないので、弱点がありそうなところをうまく選択して実

凡例

・：意見等
⇒：回答等

施していただければと思う。これまで河道の拡幅等いろいろな対策により流下能力が増加したことはわかるが、流量で効果を示しても一般住民の方にはなかなか理解しづらいところがあると思う。例えば対策によりこの場所でどれぐらい水位が下がるとか、今まで溢れていた場所が溢れなくなるとか、一般的に住民の方がわかりやすいようにという観点で説明をしていただくのがいい。シミュレーションを技術的にもっと精緻なものにし、ある程度の精度でもって流出計算ができるようになり、最終的にはこれにより市民の方に説得力を持ってわかりやすく広報、周知できるようになればいい。そのためには、災害に備えて流量、水位のモニタリングが必要であり、監視カメラ等の情報をうまく活用するなどしていただければと思う。監視カメラは夜間でも見えるようにする、少なくとも1週間、何週間も記録可能な容量を持たせることにより、被害があった時の評価など、バリエーションを持った対応ができるようになる。（会長藤田会長）

- ・丹波市市島町に住んでおり、洪水ハザードマップでも5mの水深になるところで、昔から何度も洪水を経験してきた。竹田川は右岸側に比べて、私の住んでいる左岸側は水害が多かったが、最近、左岸側である私の家の隣に住宅が建設されている。昔のような洪水はないと判断されて川の左岸側に家を建てられる方もあり、統合井堰の整備効果がでており、ありがたいと思っている。（県民委員坂谷委員）

- ・現在竹田川流域は保安林が少ない。総合治水の取組は下流の治水対策の話ばかりで、上流部の山の話が足りない。災害を引き起こすのは間伐をしていない山が非常に多いからであり、これらに力を入れるとともに、治山ダムや砂防ダムをもっと設置していただきたい。（関係団体委員中尾委員）

- ・治山ダムは県でも担当部署が違うのか。（会長藤田会長）

⇒土木事務所で砂防や急傾斜地崩壊対策の土砂災害事業を行っており、農林振興事務所で治山ダムなどの治山事業を行っている。総合治水には、山の対策も含めて一緒にやっていかないといけないといと考えており、今後10年間の対策についても農林振興事務所や市などの山の対策も計画に位置付けていきたい。（事務局）

- ・最近読んだ文献では、森林は思ったより浸透するという話もあるようで、モニタリングをしっかりとってもらったと思う。間伐は大事なので積極的に進めていただきたい。間伐が10年間で3,216haというのは十分かどうか分からないので教えてほしい。（会長藤田会長）

⇒管内の人工林は約29,000haある。通常、人工林は今の林齢からすると15年に1回間伐を行う。県では新ひょうご森づくり事業計画に基づき、10年間で43,000haの間伐を進めている。丹波地域ではその約1割を占めており、順次計画を進めている。一方、災害に強い森づくり事業として、危険溪流等を優先して、5年間で3,000haの間伐を進めている。（県関係部局農林振興事務所森林課）

- ・我々は、「そなえる」を担当している。危険度分布を示す洪水キキクルという予測データを持っており、気象庁のホームページに掲載している。24時間365日、降雨時の流量をシミュレートし流路に沿って危険度を示すシステムである。これは実際に降った雨とともに今後降るであろう雨の予測値も含めたデータで、実際に住民の方に避難していただく時に活用いただきたい。ホームページには、洪水キキクル、土砂キキクル、浸水キキクルを提供している（気象台）

凡例

・：意見等
⇒：回答等

- ・竹田川は順次工事されており、黒井川も工事が進められている。黒井川の工事が終わって川の流れが速くなったら、上流の船城地区においても溢れにくくなっていくのか。また、黒井川の下流の流れがよくなると、竹田川の国領地区に影響が出てくると思うのだが、今はその影響か、上流側がギリギリ流れているような状況であり、今後どうなるのか。（県民委員久下委員）

⇒黒井川の河川改修については、馬橋まで事業を進めることが確定しており、引き続き船城橋までも工事を続けることを今後検討していく。竹田川のその他の支川についても危険と判断される箇所については順次対応をしていく。令和4年の出水時も局所的には結構な雨が降り、委員がおっしゃるような高い水位も確認されているが、堤防の整備がある程度進んでいたおかげで今回は溢れずに済んだと考えている。今後も危険と思われるところは順次対応していく。（県関係部局土木事務所河川課）

- ・黒井川が蛇行していたが、圃場整備でスムーズに流れるようになった。黒井川から竹田川の合流地点までは護岸にかなり土砂が堆積しているので取り除いていただきたい。（関係団体委員足立委員）

⇒具体的な場所を教えていただければ、今後調査して、土砂が堆積して対策が必要な箇所については対応していきたいと考えている。（事務局）

5. その他 神戸地方気象台からの情報提供

- ・線状降水帯予測の当たる確率はどの程度か。（会長藤田会長）

⇒令和5年度(9月29日時点)の実績は半日前に呼びかけた予測22回中での中は9回である。発生したのに予測していなかったケースが23回中14回。予測精度を上げるため、令和10年度にひまわり10号を打ち上げ、3次元的に水蒸気を観測するセンサーを搭載予定であり、これにより精度が上がる。また、台風の予報円がかなり小さくできるというのが予測シミュレーション結果からわかっている。（気象台）

- ・いままでアメダスでは水蒸気は測っていなかったのか。（会長藤田会長）

⇒兵庫県内にあるアメダス26か所のうち4か所しか水蒸気(湿度)を測っていなかったが、今は19か所で測っている。（気象台）

- ・レーダの数を増やせば精度がよくなるか。（会長藤田会長）

⇒レーダは気象庁のものだけではなく、国交省などのものも気象庁で一元管理している。現在はCバンドの二重偏波レーダを使用しており、精度は随分よくなっているのでそれらを活用して精度向上に努めている。

- ・この10年間は兵庫県で大きな災害はなかったが、過去にさかのぼると整備計画の基準になった昭和58年の災害などいろいろある。昔の災害の情報を知らない人が多いと思うので、「昔ここでこういう災害があった」という過去の災害情報をしっかり広報することも大事。文章だけでなく雨の降り方のハイエトグラフなどを使い、過去の災害の状況を分かりやすく示せば、災害へ心構えを高めることができると思う。是非そういったデータを整理し公表してもらいたい。（会長藤田会長）

閉会

(以 上)